

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道21号 関ヶ原バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：岐阜県不破郡垂井町日守 至：岐阜県不破郡関ヶ原町今須			延長	10.4 km	
事業概要	一般国道21号関ヶ原バイパスは、岐阜県不破郡垂井町日守から不破郡関ヶ原町今須に至る延長10.4 kmのバイパスである。 国道21号現道には、主要渋滞箇所や事故危険区間、急勾配区間の課題があり、本事業は、課題解決のためにバイパスを整備することで、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、災害に強い道路機能の確保、観光産業の活性化等の効果を見込んでいる。					
S47年度事業化	S54年度都市計画決定	S55年度用地着手	S58年度都市計画決定	S58年度工事着手		
全体事業費	440億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約58%	供用済延長	6.0 km	
計画交通量	14,700 台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 0.92 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 189/985億円 事業費：140/915億円 維持管理費：49/69億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 288/909億円 走行時間短縮便益：257/788億円 走行経費減少便益：26/112億円 交通事故減少便益：4.8/9.2億円	基準年 令和4年		
感度分析の結果	【全体事業】交通量変動：B/C=0.83~1.02(交通量 ±10%) 事業費変動：B/C=0.91~0.94(事業費 ±10%) 事業期間変動：B/C=0.85~0.93(事業期間±20%) 【残事業】B/C=1.4~1.7(交通量 ±10%) B/C=1.4~1.6(事業費 ±10%) B/C=1.4~1.5(事業期間±20%)					
事業の効果等	①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度の改善が期待される。 ・現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線（名阪近鉄バス、関ヶ原町ふれあいバス）が存在する。 ②国土・地域ネットワークの構築 ・当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間（大垣市、彦根市）を最短時間で連絡する路線を構成する。 ・日常活動圏の中心都市（大垣市）へのアクセス向上が見込まれる。 ③個性ある地域の形成 ・地域連携プロジェクト（関ヶ原古戦場ランドデザイン）を支援する。 ・主要観光地（伊吹山ドライブウェイ）へのアクセス向上が期待される。 ④安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（大垣市民病院）へのアクセス向上が見込まれる。 ⑤災害への備え ・第一次緊急輸送路（岐阜県地域防災計画より）として位置づけられている。 ・現道等の防災点検箇所（岐阜県不破郡関ヶ原町日守～今須間）を迂回することができる。 ・現道等の予防的通行規制区間（山中峠）を迂回することができる。 ⑥地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑦生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。					

・現道等の騒音レベルの改善が期待される。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた意見主な意見等：

・国道21号岐阜・滋賀バイパス建設促進期成同盟会が早期整備を要望。

岐阜県知事の意見：

・対応方針（原案）案のとおり、本事業の継続について異存ありません。

・一般国道21号関ヶ原バイパスの整備により、豪雪時の山中峠を回避することが可能となり、災害に強い道路機能の確保が期待されることから、引き続き早期完成に向けた事業の推進をお願いします。

・事業費については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）は妥当である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・国道21号現道の関ヶ原西町交差点付近は信号交差点が連続し、渋滞損失時間が45.9万人時間/kmと大きくなっている。

・関ヶ原バイパスに並行する国道21号現道には事故危険区間が3箇所存在し、渋滞や追越に起因すると考えられる正面衝突・追突の事故が約6割を占めている。

・関ヶ原付近では降雪量が平均約115cm/年と周辺地域と比較しても多く、国道21号現道の山中峠（約2km）は、縦断勾配が6.0%を超える箇所が存在するため、大雪時に立ち往生等が起こりやすい区間として「予防的通行規制区間」に指定されている。

・関ヶ原町では、関ヶ原のブランド力を活かした地域活性化と歴史資産の継承に向けて、平成27年3月に「関ヶ原古戦場ランドデザイン」を策定し、関ヶ原古戦場の保全および再整備に取り組んでおり、ハード面での整備が概成している。

・令和4年8月に岐阜県知事と滋賀県知事との懇談会において、戦国時代の史跡をつなぐ「広域観光ループ」が提案されるとともに、10月には、関ヶ原町と滋賀県の3市が観光振興に関する新たな連携協定を結び観光ツアーを企画するなどハード面を活かす取り組みが始まっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約58%、用地進捗率は約85%（令和4年3月末時点）

・不破郡垂井町日守～関ヶ原町玉間（延長6.0km）は、暫定2車線で開通済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・不破郡関ヶ原町玉～関ヶ原町今須間について、近年の大雪による地域への影響等を踏まえ調査設計を推進する。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

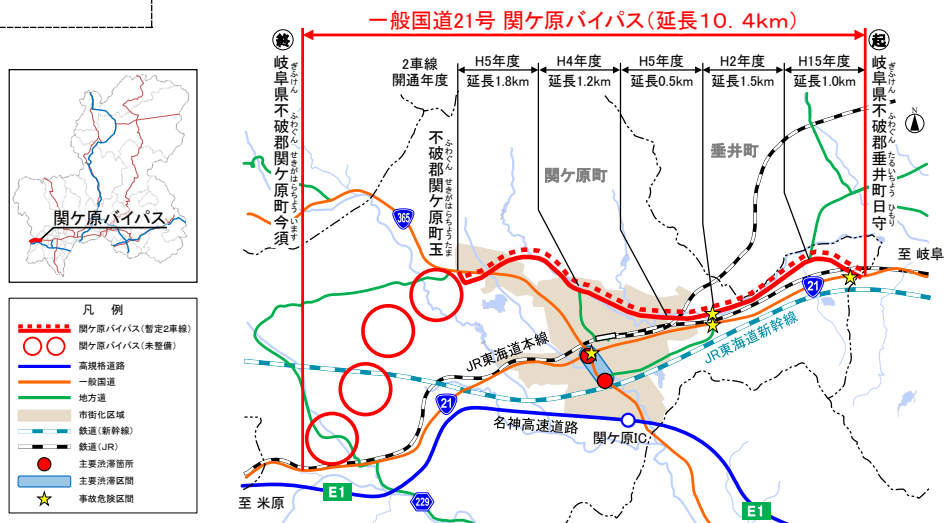
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。